解答速報 国語

医学部受験専門予備校 慧修会

2024年度　昭和大学　Ⅰ期

【　講　評　】

大問3問だった昨年度に対し、今年度は大問2問の構成。大問1は、問題文は比較的易しい一方、設問は、空欄補充問題や内容合致問題、記述式の内容説明問題と多岐に渡っている。大問2は、傍線部を具体的に記述する問題や傍線部の理由を記述する問題が大半であり、難易度が高い。したがって、普段から抽象度の高い文章を読解し、内容を正確に把握することに加え、私大型の客観問題だけでなく、国公立2次で出題されるような記述問題を解く経験を積んでおく必要がある。

【　解　答　】

一

設問１　進歩
設問２　イ
設問３　科学技術は中立的であり、価値判断をするのは人間であること。
設問４　オ
設問５　上
設問６　ダーウィン等によって巨人実在説が否定された結果、人間に関する知識が定着したこと。
設問７　文章を自動的に作る装置を使って文章を書くほど、自分で物を書く能力が衰退すること。
設問８　エ
設問９　ウ
設問１０　オ
設問１１　エ
設問１２
①　×
②　○
③　○
④　○
⑤　○
⑥　×
⑦　○
⑧　×
設問１３　5
設問１４　a＝大真面目　b＝皮膚　c＝遮　d＝痴愚　e＝網羅

二

設問１　極めて限定的な余命の患者に対する積極的な延命治療は不適切であると病院の倫理委員会が判断し、延命治療を中止できるようにすること。

設問２　医療の目的とは、治療によって患者に利益をもたらすことであるのに、法的システムは、患者が利益を得られない治療を要求していること。

設問３　ベビーKにあらゆる感覚を経験する能力がないことを理解しないが故に、ベビーKの呼吸における苦痛について繰り返し言及しているから。

設問４　医師たちは、ベビーKの判決を一般的な医学的および倫理的決定への介入と捉えていたが、裁判所自身が、意外なことに判決の適用を集中治療室において病院が困窮した患者を放り出すのを防ぐ場合に限定したこと。

設問５　エ

設問６　常識的に見て回復不可能な状況において患者が医者に治療を求めた場合、期待通りに治療を行い、患者を回復させる義務は医者にないこと。

設問７　延命につながる限り、永久に意識が戻らなくても、医師は治療を無益と述べることはできないと主張する人々は、古代ギリシア・ローマの医師の義務は延命よりも生命力の手助けであったことに気づいていないこと。

設問８　ウ

設問９　筆者は、医学的無益性に関して、医学的介入は患者を助け、一つの総体としての患者に利益を与えることを目的とするという考え方からスタートし、患者に対する治療によって得られる利益の見込みや質が受け入れられないくらい低い介入は無益であるという考えを支持すると述べている。

設問 10

ⓐ　徴候(兆候)
ⓑ　蘇生(甦生)
ⓒ　茶番劇
ⓓ　享受
ⓔ　憤慨
ⓕ　満場一致
ⓖ　杜撰
ⓗ　矯正
ⓘ　転機
ⓙ　曖昧

お問い合わせは ☎0120-302-872
https://keishu-kai.com/